

<今朝の聖書から>

【自分のしていること】十字架の上の言葉につづきます。“父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです”が34節の御言葉です。“私の目的の為にきちんと計画を立て、努力することぐらい知っているし、そのようにしている”と私たちは思っています。目指すのは“幸福”でしょう。全ての人には幸福を願っています。この上もなく正しいことですし、幸福を願わなくなったら、生きていくことそのものに対して投げやりになってしまいます。でも願っている幸福は、人によってずいぶん違ってきます。皆が願ってはいても、それをはっきり見出す人は少ないのかもしれませんが。教会ではビジョンという言葉を用います。救いへの道にある一歩、その日が神様の救いに支えられていることに気づいて、はっきりとビジョンを持つことができるのです。ビジョンの修正が必要な時には主が教えて下さいます。今どんなビジョンに生きていくのか思い出しましょう。(十字架の言葉を「十字架上の七言」と言います。)

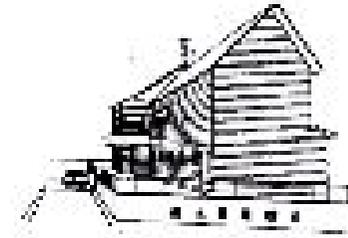
【嘲笑う】“議員たちも、あざ笑って言った(35節)”とあります。これが主イエスを嘲笑う人々の代表を物語っています。そしてこれが、彼らの毎日だったのです。勝利者への企てかもしれませんが。生き方を貫いている姿です。つづいて“他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい”と、更にこの生き方を告白しています。“神様を信じるなら何とかしてもらえ、何の役にも立たないのが信仰じゃないか!”等と、教会も言われたことはないでしょうか。そして“私に起こった山のような主の奇跡”を思い出すのですが、分かってもらえない悲しみを覚えたり、主の救いをめぐって人と人が争い、不和を作ってしまうような、罪の世界を思い起こすのです。悲しいことです。

【信じた人】今朝の箇所には、完全に信じた人が現れます。長い間、半分だけ主イエスを信じたのではなく、短い時間でも完全に信じた人です。“お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ(40~41節)”という犯罪人の告白と勧めです。彼は、おそらく犯罪を確かに犯したのでしょう。犯さざるを得ない罪深い世界に生きていくことが分かったのです。同じことですが、罪多いことが分かった時、救いが、“今、あるいはあの時”私と共にあることもまた分かるのです。この男に主は“パラダイスにいることを約束されたのです”。

【教会の姿】教会は、先にも言ったと思いますが、死んでしまうことを確認し合う集団ではなく、復活の確かさに望みを置く群れなのです。パラダイスに居ると主の御声を聞いた者たちです。この群れの中に“御霊による一致(ヨハネ5:8)”のないことがあるのでしょうか。確認しなければならないことはここなのです。罪と悲しみはなく、ただ救いだけがあるということは意味のない言葉です。クリスマスに思い出すべきこと、初めての方がまず知るべきことは“悲しみにあったが、主の恵みを知る者に変えられた”ということで、これがクリスマスです。

週報

2010年 11月 21日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステルのお会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042